

Your Capital Market Intelligence

IR Japan

株主と企業を結ぶコンサルティング・パートナー



決算説明会資料

2013年3月期第3Q（2012年4月1日～2012年12月31日）

2013年2月1日

株式会社アイ・アール ジャパン（6051）

株式会社アイ・アール ジャパンの承諾なしに、本レポートの全部もしくは一部を引用または複製することを厳重に禁じます。



I . 2013年3月期第3Q業績報告



2013年3月期第3Q 決算ハイライト

当期累計の業績は、上場来過去最高となりました。

(百万円)

	2013/3期 3Q累計(4月-12月)	前期比	増減	2012/3期 3Q累計(4月-12月) (前期比)
売上高	2,556	17.4%	378	2,177 (3.0%)
営業利益	664	32.7%	163	500 (3.6%)
経常利益	660	31.5%	158	502 (0.2%)
四半期純利益	344	50.4%	115	229 (▲ 11.7%)



2013年3月期第3Q 決算の要点

【P/L】

- 証券代行業の開始によって、当社のIR・SRサービス全般のラインナップが強化され、結果、顧客数が順調に増加した。主力のIR・SRコンサルティング及びディスクロージャーコンサルティングの売上高が大幅に増加した結果、売上高は前期比**17.4%増**の2,556百万円を達成。
- 売上高の増加に伴い外注費は増加したものの、その他費用の増加が限定的であったため、営業利益は前期比**32.7%増**の664百万円、経常利益は同**31.5%増**の660百万円、四半期純利益は同**50.4%増**の344百万円となった。
- **証券代行業は、第3四半期中に上場企業2社の受託を開始した。**

【B/S】

- 純資産は、利益剰余金が四半期純利益の計上による344百万円の増加、配当金の支払いによる113百万円の減少等により、2012年3月期末に比べ230百万円増加し、1,505百万円となった。
- 一株当たり純資産は、2012年3月期末の755.43円から18.1%増加し892.22円となった。
- 自己資本比率は2012年3月期末の70.6%に比べ+1.5ptsの72.1%と、**有利子負債ゼロ**の無借入金体制による強固な財務体質を維持。



2013年3月期第3Q サービス別売上高 実績

(百万円)

	2013/3期 3Q累計(4月-12月) (前期比)	2012/3期 3Q累計(4月-12月) (前期比)	増減
IR・SRコンサルティング	1,865 (20.1%)	1,553 (1.5%)	312
ディスクロージャー コンサルティング	518 (13.3%)	457 (9.2%)	60
データベース・その他	172 (3.4%)	167 (1.3%)	5



2013年3月期第3Q サービス別の要点

【サービス別】 <売上高(前期比)>

●IR・SRコンサルティング <1,865百万円(+20.1%)>

- ✓ 上場企業各社における、株主からの賛成票確保・アクティビストファンド対策等の当社IR・SRコンサルティングサービス（株主判明調査ならびに議決権行使促進活動）のニーズが増大し、新規及び既存顧客の通常案件受注が堅調に推移。
- ✓ 証券代行事業の開始によって、IR・SRサービス全般のラインナップが強化され、顧客数が順調に増加。
- ✓ 社員教育の徹底によるコンサルタントの質向上及びリサーチ部門の強化により、適切かつ効率的なサービス提供が行える体制の構築に加え、FA（投資銀行）及びLA（法律事務所）との連携等、全社一丸の取組により、前期に比べ**売上機会ロスを一層軽減**し、顧客の裾野が拡大。

●ディスクロージャーコンサルティング<518百万円(+13.3%)>

- ✓ ツールコンサルティング（Annual Report、株主通信等の企画・作成支援）は、新規顧客の獲得に加え、既存顧客への拡販が奏功し増収。
- ✓ リーガルドキュメンテーション（各種法定開示書類等の英文開示書類の作成や和文資料の英訳）は決算短信、招集通知等の翻訳の受注増加により、増収。

●データベース・その他<172百万円(3.4%)>

- ✓ 個人株主向けアンケートシステム「株主ひろば」の受託が伸び、増収。



2013年3月期第3Q 前期比増減要因分析

(百万円)

	2013/3期 3Q累計 (4月－12月)	2012/3期 3Q累計 (4月－12月)	増減	主な要因(利益に対する影響)
売上高	2,556	2,177	378	
営業費用* (売上原価＋販管費)	▲1,891	▲1,677	▲214	<ul style="list-style-type: none"> ・人員増加等による人件費の増加(▲53M) ・売上増加に伴う外注費の増加(▲149M) ・その他経費の増加(▲9M) ・仕掛品の水準による一時的な営業費用の増加(▲1M)
営業利益	664	500	163	
営業外損益	▲4	1	▲5	・当期は為替差損(▲4M)発生
経常利益	660	502	158	
特別損益	-	▲0	0	
税引前四半期利益	660	502	158	
法人税等	▲315	▲273	▲42	<ul style="list-style-type: none"> ・見積実効税率変更による減少(31M) ・税引前四半期純利益の増加(▲75M)
四半期純利益	344	229	115	

* 営業費用：当社では就業時間に応じて人件費等を売上原価及び販管費に各々計上しているため、売上原価及び販管費の計上額が就業時間によって大きく左右されます。そこで、人件費等の各費目について、売上原価及び販管費を合算することで、就業時間の変動に影響を受けない分析を行っております。

** のれん償却：当社はMBOに伴うのれん代を2009/3期から毎年85百万円償却(組織再編税制における適格合併のため)しています。そのため、償却が終了する2014/3期からは**営業費用が前期比85百万円減となるため、同額の利益押し上げ効果が見込まれます。**



Ⅱ. 2013年3月期 事業戦略の概要



IR・SRを取り巻く環境

- 外国人の積極的な日本株買い(=株主構成上の外国人のプレゼンスの高まり)
 - ✓ 株主総会における議案否決リスクの高まり
 - ✓ 敵対的買収リスクの高まり
- アクティビストの活発化を受けた、上場企業による事前のリスク対応の積極化
- 国内機関投資家の外国人化(=議決権行使の判断基準の厳格化)
- ストラテジックバイヤーによる敵対的買収の勃発

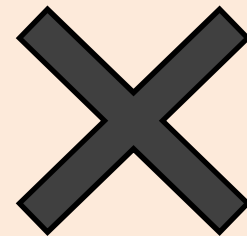
議決権リスクに対して上場企業が神経を尖らせている
(当社コンサルティングニーズの拡大)



高いシナジーを有する2本のドライバーで成長を加速

コア業務の強化 (IR・SRコンサルティング)

- ✓総合的な株主対応業務の提案を強化
(大型案件の受託)
- ✓証券代行事業を起点とするワンストップでの
株主対応業務の提案を加速
- ✓営業体制の強化(収益機会損失の防止)



事業領域の拡大 (証券代行事業の開始)

- ✓全く新しい証券代行サービスの提供
①迅速、②高度できめ細かい、③低価格
- ✓全上場企業から受託可能
SRコンサルティングの主要顧客層でない
時価総額1,000億円未満企業もターゲット

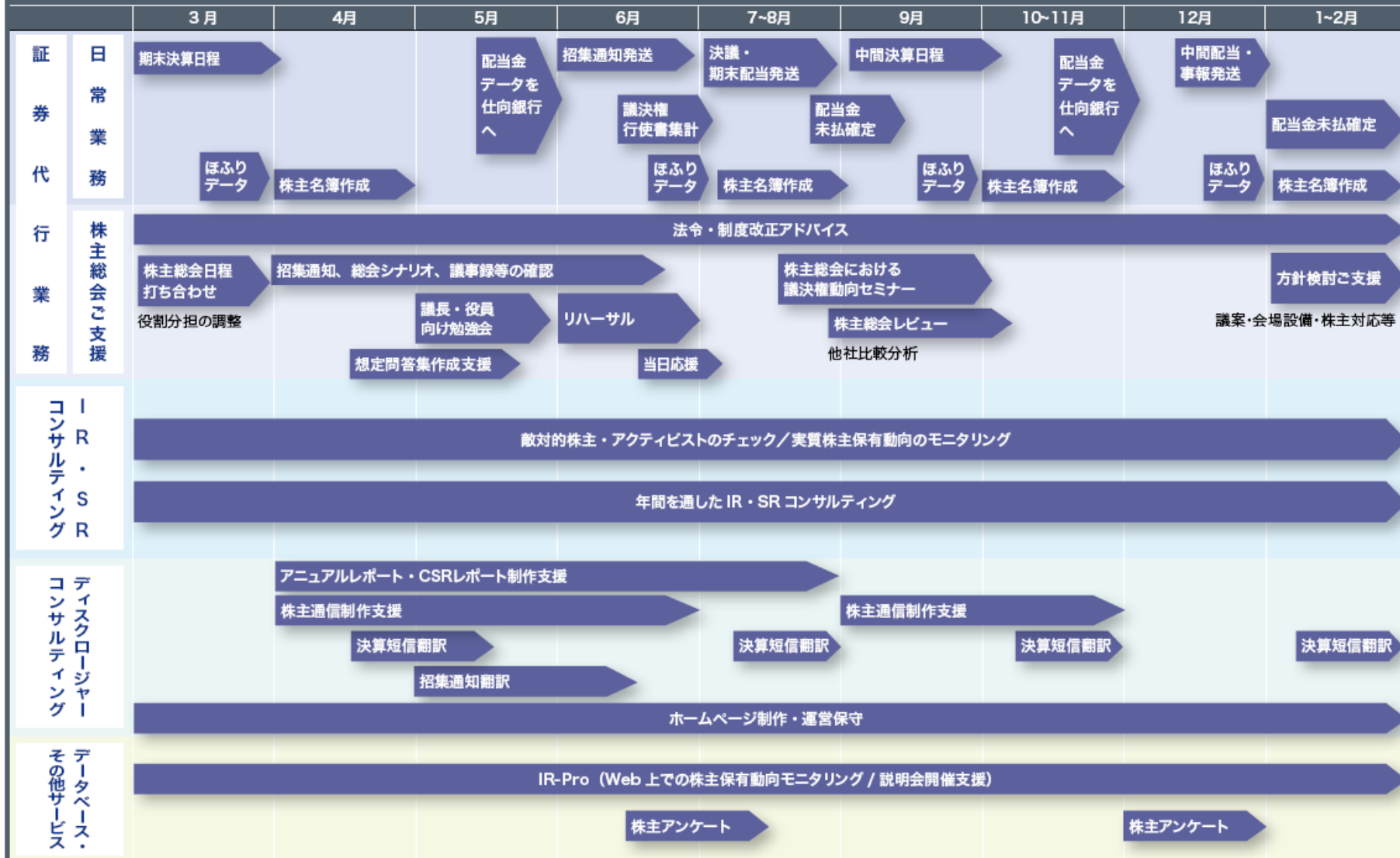
IR Japan 独自のワンストップ ストックソリューションサービスを提供

顧客数及び顧客単価双方の増加を目指す



ワンストップストックソリューションサービス

IR Japan 独自のワンストップストックソリューションサービス(3月決算企業の例)





証券代行業業の状況

- 証券代行業業については、40年振りの新規参入会社として第3四半期までに上場企業3社(当社含む。以下同様)の受託を開始。
- 現時点において受託決定済みの上場企業は8社。
うち、当期中の受託開始は6社。
- 全国規模で多数の上場企業から委託先決定のためのコンペ参加の依頼を受けている。
- 株券電子化後における全証券代行各社の委託替え年間平均社数である約90社のうち参入後1年未満で約1割を獲得したことに、当社の参入の意義とともに当社の競争力について、自信を深めた。



全国規模での新規受託獲得に向けた取組

全国紙への広告

上場企業*のCEO、株式法務の皆様へ



貴社は株券電子化**の奔流に乗り遅れていませんか？

IR Japan は株券電子化の最大メリットを提供するために生まれた新しい証券代行機関***です。

まずはお問い合わせ下さい。フリーダイヤル:0120-103-436(9:00~18:00 土・日・祝日を除く)
弊社コンサルタントが秘密厳守のもと迅速にお応えいたします。(見積無料)

アイ・アール ジャパン 証券代行

* IPOを目指されている企業の皆さまからのお問い合わせも歓迎しております。

** 2009年1月から全ての上場株券は電子管理に移行しました。

*** 証券代行機関とは、株式会社に代わって株主名簿の作成、管理などの事務を担当する機関の通称です。

各取引所が承認する機関は旧来、信託銀行3社及び専門代行2社でしたが、IR Japanは約40年ぶりに新規参入をいたしました。

2013年2月1日付 日本経済新聞朝刊(19面:マーケット総合2)

全国規模でみると、当社の新規参入を知らない上場企業も多数あることから、
全国紙への広告を打ち、認知度を向上をはかる。



Ⅲ. 業績予想 及び 株主還元



2013年3月期 年間配当について

現時点での業績予想が判明したことを踏まえ、2013年3月期の年間配当は、2012年5月15日に公表した年間配当(45円)から25円増配し、**70円**とします。その結果、期末配当は、**47.5円**となります。

前期実績45円に比べて25円の増配(増加率56%)

(参考)1株あたり配当金の前期比較

	第2四半期末	期末	年間
2013年3月期 (予定)	22.5円	47.5円	70円
2012年3月期 (実績)	-	45円	45円



2013年3月期 業績予想 (1月31日時点)

	2013/3期 通期業績予想	前期比	増減	2012/3期 通期実績 (前期比)
売上高	3,000	10.8%	292	2,707 (8.3%)
営業利益	565	16.5%	80	484 (16.8%)
経常利益	561	15.0%	73	487 (16.6%)
当期純利益	281	30.6%	65	215 (25.0%)

* 2013年3月期末をもって、のれん償却(年額85百万円)が終了

当社はMBOに伴うのれん代を2009/3期より毎年85百万円償却を行っております。

なお、本償却は2013/3期末をもって終了となります。そのため、2014/3期からは他の条件が同一と仮定した場合、

営業費用が前期比85百万円減となるため、同額の利益押し上げ効果が見込まれます。

Your Capital Market Intelligence

IR Japan



株主と企業を結ぶコンサルティング・パートナー

Your Capital Market Intelligenceとは、IR Japanが発行企業、投資家の皆様の資本市場でのリスク回避や多種多様なニーズへの対応をコアビジネスとし、独自のIntelligence(高度な情報を駆使して解決する能力)をフル活用し、持続的な成長を加速させることを示すコンセプトです。